



## 新 副 病 院 長 挨 拶



副病院長（安全対策担当）皮膚科 科長 島田 眞路

今般 星病院長のご指名で安全対策担当の副病院長に就任いたしました。星病院長の前任の職務ですので、ご指導を受けながら精一杯つとめさせていただく所存です。

熊沢前病院長のもとで、感染対策委員長をしておりましたが、星安全対策室長の仕事ぶりを間近に拝見し、次々と襲ってくる難題を的確に解決されるお姿に感嘆いたしました。

感染対策の場合は、MRSAなど多少知識のある分野であることもあり、取り組みやすく感じておりました。しかし実際にはSARS問題やO157など休む間もなく次々と専門外の難題が襲いかかってきました。2年半何とか岩下感染対策師長とともに乗り切ることができました。

昨年10月からは医学科長も拝命し、今年4月からは日本研究皮膚科学会理事長にもなりましたので、しばらくは病院の方は皮膚科科長に専念したいと思っておりました。しかし、副病院長を拝命し、幸か不幸か前ICNの岩下さんが、小野さんのあとGRMに就任することになり、またまた一緒に働くことになりました。現在数ヶ月が過ぎようとしておりますが、2人とも安全対策では新人ですので手探りやっけてまいりました。何とか軌道に乗りつつあるように感じております。しかしまだまだ何が起こるか予断を許さないのが安全対策と思っておりますので気をひきしめてがんばるつもりです。

安全対策は医師、看護師、パラメディカルの方々、事務部門などすべての病院職員のご協力なしには成り立ちません。皆様方のご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

### 安全対策について

副病院長のあいさつの項でも述べましたが、安全対策は病院のすべての職員のご支援、ご協力があって初めて成功するものです。よろしくお願い申し上げます。

幸い、前任の星病院長のときに医療スタッフマニュアル（携帯版）が作られ、すでに改訂版まで出版されました。皆様方のポケットに常時携帯されているものと思います。さきの病院機能評価のときにも当院の安全対策は高い評価を受けています。私の使命は先ず第一に岩下GRMとともにそのレベルを継続し維持することと考えております。

私自身、国立大学病院医療安全管理協議会や、国立保健医療科学院の安全リーダーシップ研修会などに参加し感じたことは、安全対策の概念が著しく変遷していることです。正直に告白しますと“医療ミス”は個人の不注意によるものという固定観念がありました。ところが最近の安全対策は“To error is human”“人はミスをおかすもの”というところから出発しています。もちろん個人差はあると思います。ただミスをおかしそうになっても未然に防ぐようなシステムが必要なのです。日頃皆さんが行っている“ダブルチェック”や患者様のフルネームでの“声だし確認”などはその一例です。また医師—医師間、医師—看護師間、看護師—看護師間などのコミュニケーション不足も事故の原因です。事例検討会などで、各職種間のコミュニケーションをはかり、根本原因分析（Root cause analysis）など最新の分析法を用いて安全対策をすすめています。その他救急蘇生の知識・意識の向上をめざしてAEDの講習なども行っています。

安全対策はひとりひとりが行うものです。皆様方のご意見を積極的に取り入れていきたいと思っておりますので、私や岩下までぜひご意見をお寄せ下さい。

## 副 病 院 長 と し て



副病院長（財務管理・増収対策担当）病院経営管理部長 教授 佐藤 弥

本年4月より財務担当副病院長として星病院長の補佐を担当することとなりました。以前より病院経営管理部そのものが病院長の支援部門の位置づけであり、役割としての大きな変化はありません。執行部体制の一員としては、病院運営により大きな責任があるものと考えています。

本院はこれまで診療科、中央診療部門、事務部門のすべてが経営に対して不満はあっても病院運営に対して協力的であり、効率化も国立大学法人の中では最も進んでいると考えています。とはいえ、これからの2年間は非常に厳しい状況にあります。ここを乗り越えることができれば、資金運用上は余裕がでる可能性が高まります。

多く寄せられる病院施設に対する不満や問題は簡単に解決できるものではなく、これまでの努力にもかかわらず再開発の目途は立っていません。また経費節減や増収対策についての不満も多くあることは事実です。状況を改善するために、今後もさまざまな情報や企画案を提示する予定であります。単に反対するのではなく、ぜひ対案や修正案をいただければと思っています。

私自身は本病院での臨床経験はなく、実際に病棟や外来など診療現場にいる訳ではありませんので「病院のことを知らないで」と非難される職員もおりますが、病院経営管理部としても直接診療以外のルーチン業務以外については常に担当してきております。その役割の違いをご理解の上、今後とも病院の改善、患者さんおよび職員の満足度を上げるために協力をお願いいたします。

ご意見、ご質問、ご不満がありましたら文書でもメールでも結構ですので直接いただければと思います。

## 事 務 部 長 挨 拶



医学部事務部長 藤原 定夫

本年4月1日付けにて、医学部事務部長を拝命しました藤原定夫です。実に13年振りの本学での職務、戸惑いながらも落ち着きを取り戻しつつある今日です。

私は微力ながらも、常に前を見据えた仕事がしたい、今日よりも明日・明日よりも明後日と一歩でも半歩でも前進したいをモットーに“今やらずして何時やる”の気概で職務に精励してゆく所存であります。

この“今やらずして何時やる”の言葉は京都大学に奉職していた頃、大徳寺の大阿砂利である住職さんから、私の性格に合った言葉として頂戴し、それ以来どこの大学にお世話になっても使っております。

法人化2年目を迎え病院経営改善効率化係数2パーセント、昨年に比して約2億2000万円の増収を、今年度目標111億4500万円を達成すべくためにも“今やらずして何時やる”の気概で事務部が一丸となり努力する必要がある、その先頭に立ち頑張っていく所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。

幸いにも本院は、財投の債務償還経費について現時点での推計によると、本年度が病院経営改善効率化係数2パーセントの係る最後の年度であります。一方、全国国立大学42病院の中でも効率的病院運営では常にトップであり実績豊富で、今年度目標も教職員の頑張りで見事に実現するものと確信しております。